

Catch the eye 2015年3月

015/3/2 (月)鳩の知らせ

昨日がよく降った。夜までずっと雨だった。そのなか、3箇所をハシゴした。開業5周年の特別営業をした女性オーナーのコーヒー専門店、ビジネスコンペの最終プレゼン、そして創業塾OBの勉強&懇親会。大阪から京都駅前、そして長岡京。雨がやんだのは懇親会が終わった頃だった。

あれほど降ったのだからすっきり晴れてよさそうなのに、曇りがち。それに寒い。朝よりも気温が低くなっている感じがする。季節の絵葉書を買いにいったが、桜はまだ早い気がして、パステルブルー・ピンク・イエローの小さな小さな蝶が飛ぶ絵柄にした。

飛ぶといえば、年初の鳩のことを時々思い出す。あの場面に出くわした意味は「助ける」にあると思った。そういう年なのだろうと考えることにした。先日中津駅で買い物キャリーを引きづるように階段をあがっていた老女がいた。キャリーはまだ空のようだった。

それもあってか、自分も重いバックを持っていたからか、横目に老女が見えて、大変だなあと思いながらも、右手のバックを左手でも持ち上げるようにして、階段を通り過ぎた。地上に着き、バックいったん石台に置いた時、地下から「あっ、どうもすみません」という声のぼってきた。

“そうだ、自分がやらなければいけなかったのに・・・”。鳩の知らせを思い出したのだった。忘れないようにしよう、忘れないように。そう言い聞かせた。たぶん今年はその状況に出会うことが多いのだろう。けっして大掛かりなことではなく、日常のささいな場面で。さて、どうだろうか。

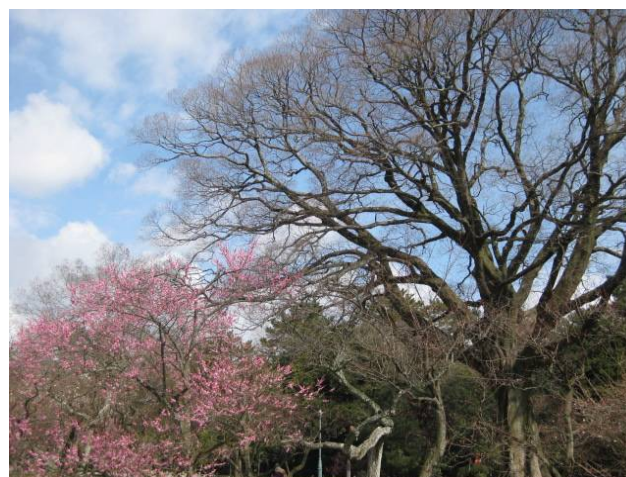
2015/3/4 夕日
(水)

グランフロント西の壁面に夕日



2015/3/5 京都御苑
(木)

お屋前に二条城近くで仕事。そのまま帰るのはもったいないので、御苑まで歩き、梅見。御苑手前で、町屋のスタイリッシュなショップあり。外の案内にはカフェの様子。入ってみると、「白鹿」のアンテナショップだった。4種のカフェメニューの中身が小粋だった。



2015/3/9 また春がくる
(月)

このところすっきりj晴れることがない。それに変わりやすい。今日はまた午後から本降りの雨になるらしい。そのあと、明日明後日にかけて真冬なみの寒さになるというから、用心。

たぶんそれが最後の冬。この季節の変わり目に親をおくった友人知人少なからず。長年の介護のすえのことで、気持ちの整理、哀しみ癒えるまでにはそれ相当の時間がかかると察す。

『遅かれ早かれ、季節はまた巡る』。104歳の永平寺禪師がそう語ると、そのあまりに当たり前のことの意味が深々と聞く者の目と心をひらかせる。禪師の言葉が友人知人たちに届きますことを。

2015/3/11 強弁と実相
(水)

4年前の今日は比較的暖かかった。翌日の法事の下準備を終え屋下がりに事務所へ出た。今と同じようにPCに向かい、ホームページの記事を更新している時だった。

自分の動きで体がゆれているのかと思った。咄嗟にPCの背後に目をやる。ブラインドの紐を見た。2メートルほどの2本が上から垂れている。それが左右にゆれている。PCからの風かしらとしばらく見つめた。

体も紐もゆれがとまらない。これは・・・！。フロアの他の会社がざわつきだした。廊下に人が出てきた。扉を開けて廊下に身をのりだす。隣の女性社員と顔が合った。

「ゆれてますよね」と声をかけてきた。「そうですよね」。彼女はいったん部屋にひっこんだ。こちらも扉はあけたままラジオをかけた。隣の会社から人が出てきて、部屋の鍵をかける大きな音がした。

廊下を小走りに、階下へおりていくのが聞こえた。ラジオをNHKに合わせる。大阪からなるか離れたところで、大変なことが起こったとわかった。被災の映像を見たのは夜だった。

今日の前後から関連ニュースは続く。復興住宅建設の遅れを報じる一方で、復興が確実に進んでいると自信げに語る政治家。道路は再建されても、人は戻るのか。いつもの時代も割を食うのは庶民の感。

グランフロント
北庭の沈丁花



2015/3/12 「師について」
(木)

真冬なみの寒さもおさまってきた。今日の大阪は晴れ時々曇。グランフロントの北庭、小さすぎてあまり季節感はないが、春だけは厚みあり。オープンが春だったからか。寒波の昨日、沈丁花が風にふるえていた。

風ではなく文章に少し身震いする。読む前から毎週切り抜いている木曜夕刊の記事。日経のプロムナード。執筆者とどこかで何か通じるものがある。初めて読んだ時にそう感じた。

5日の「師について」。恩師のことを思い出した。学習塾の門下生と師が続けていた読書会、そこで堀田善衛の本に出会った。演劇の定期観劇で、今はなき名優たちの舞台を観ることができた。

「恩師」という言葉を使うようになったのは独立してからだ。自分を前面に仕事をするようになって初めて、自分の質を意識することになった。どういう風にして、こういう自分が出来上がったのだろう。そう問うた。

たどると、十代なかばで出会った恩師やその周辺の大人たちの存在が大きかった。貴重な経験をしたのだと心底再認識した。教育とはこういうことなのかと、思ったものだった。

生前、体の元気な頃、仕事と人生の集大成にあたるような原稿を書き始めている、そう聞いたことがある。本当の師といえる人は大昔から自分では本を書いていない。弟子たちが伝え聞いてまとめている。

恩師もどの程度まで書き進めていたのか、書き遺すことにどれほど意味を感じていたのか、遺稿の存在は不明。さまざまな教育分野にちらばる門下生たちがその役割を果たしていると思う。

読書会の末席であまり発言することなく、いつも議論のやりとりを聞いていることの多いある回で、無意識に発した意見に、『いいこと言うなあ』と褒められた。

あまり素朴な着眼であったので、褒められたのは意外だった。どぎまぎした。でもよくよく考えてみれば、本質的なことであった。それをしっかりとらえて、返してくれる。その行為の大切さを学んだ気がしている、今も。



2015/3/18 子供と大人
(水)

“伊達眼鏡でもかけててよかった・・・”。昨日の朝、晴天なのに町の通りは白けていた。大量の花粉が舞っているに違いない。思わずハンカチで鼻をおさえ、駅へ急いだ。今日は朝から曇っている。昨日のように目にはつかないが、雨が降り出すまでは花粉に覆われている。そう思うと、くしゃみが出た。春をよるこぶ気持ちに水をさす。それでも、春よ来い。この週末は春分、今日は彼岸の入り。

『子供は自分のことが見えている』。子供の学びを支援している女性起業家がそんな話をしてくれた。勉強中にいつもよく騒ぐ子供。ある日一人呼んで話をしてみた。すると、騒ぐのは多動性の自分を繕うためだった。彼女にそのことを引き出してもらい、子供は大泣きに泣いたという。学校でも家庭でもいつも叱られる。自分でもおさえられない自分の体。彼女に告白し終えた子供は、すっきりした表情で帰ったそう。

社会へ出ると関心事が多くなる。だから大人は自分のことが見えなくなるのかもしれない。子供は身近なところから関心を持ちだす。一番は自分。そういえば、けっこう冷めた目で自分をみていたし、まわりの大人をみていたと、はるか昔を思い出す。十代の頃になると、大人が嫌なものに映った。世間ズレしていくような印象。会社員時代、過去のそんな話をしたら、『君も大人になった』。と先輩。イタいところを突く。

『次から、動きだしたくなったら、「みんなで歌いたい」とか言って、先生に合図出して』。帰りがけに彼女はそう声をかけたらしい。偉い。前向きに、何か力になるように働きかける。こういう大人に出会って、子供の心の社会が広がり、学習のための学習方法が高まっていく。そういう機会を掴み取ってしまう大人になってはいけない。そうあらためて肝に銘じた。大人同士もまた同様。

2015/3/22 クレオ北館
(日)

移転直前、なんだかんだと10年通ったクレオ北館



2015/3/28 桜咲く
(土)

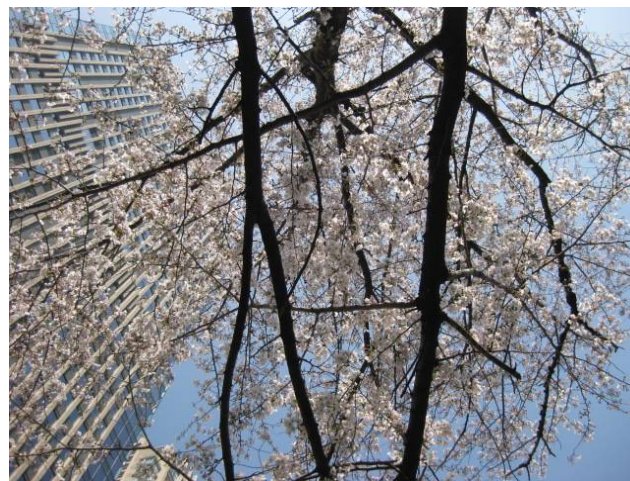
“カメラがなくて残念……”。26日の午後、大阪城公園を自転車で通った。桜が咲き始めていた。淡い花の風景。桃園はメリハリのきいた色景色。いい季節になってきた。

そのいい季節をまだじっくり味わうこともなく、年度の新旧交代のこの時期、済ませておきたいことや、準備しておきたいことがあれこれ。何かしらやるべきことが続く。

3月も残り三日。いいカタチで締めくくり、いいスタートをきりましょう。

2025/3/30 近所の桜
(月)

J R西日本本社ビルの円庭、グランフロントの前





ユキヤナギも

